

はばたくなら ①⑦

遊びからの学びをつなげよう
～異年齢の関わりを通して～

取組について

■本園の幼児の実態として、優しく穏やかな幼児が多いが、人との関わりにおいては消極的な面が見られる。園児数の減少により、クラスの少人数の関わりだけでは友達と関わる楽しさやつながる喜びを感じる体験が少ないという課題があり、幼児たちにとって園生活は人間関係を築くための大切な環境になっている。また、転びやすい、身体の動きが不安定など、運動能力・身体能力においても弱さが感じられ、幼児たちの関わりを深めながら心身ともに成長できる取組の必要性を感じた。

■このような実態から、職員間で話し合いをもち、異年齢の関わりを通して互いの成長や学びにつながるよう、主体的に体を動かす遊びを中心として、幼児の体づくりや運動機能を高めたいと考えた。また、小学校との接続においても、運動遊びを通して身体の基礎感覚や、前向きに取り組む気持ちの芽生えを培っていきたいと考えた。

■そこで、研修で「幼少期に身に付けたい36の基本動作」について学び、異年齢で楽しんで運動遊びが経験できるよう遊びの環境を構成し、継続して遊び込めるように工夫して取り組んできた。また、幼児たちが自ら「楽しい」「やってみよう」「もっとしたい」と、意欲的に身体を動かして多様な動きを獲得できるよう、個々の発達や遊びの楽しみ方などを探りながら、日々職員で話し合いを重ね、環境を整えていくようにした。

この取組を通して・・・

○運動遊びの研修から、遊びの中で多様な動きが経験できるよう、一人一人に合わせた環境の構成や関わり方の工夫を、全職員で共有しながら進めてきた。幼児の「楽しそう」「やってみたい!」「できそう!」という思いが実現できるよう継続して取り入れたことで、幼児たちの運動遊びへの興味・関心の幅が広がり、次第に友達を見て挑戦しようとする意欲が見られるようになった。

○異年齢での運動遊びを計画して取り入れ、遊びによって保育者が担当を交代したり、担任以外と遊びを楽しんだりする機会をもったことで、他の保育者の話にも親しみをもって耳を傾けるようになった。また、運動機能の発達だけではなく、年上の子は自然に年下の子に教えたり、遊びを提案したり、ルールや考えを伝えたりする姿が見られ、年下の子から憧れや親しみをもたれることで、自己肯定感を高めることができたと感じる。また、年下の子は、年上の子を見て模倣したり、「やってみよう」といった挑戦する意欲をもち多様な考えを学んだり共に楽しもうとする気持ちが芽生えたように思う。今後も異年齢の関わり、保育者の連携を大切に運動遊びを継続して取り入れ、幼児の心身の発達の土台を築いていきたい。

実践事例①サーキット遊び 6月

※保育者の援助・環境構成

○幼児の姿

●異年齢の関わりによる幼児の姿

36の基本動作

職員間での確認・共有

幼児のつぶやき

ねらい・自分たちで遊びの場を構成し、自分のしたいことに挑戦したり、繰り返し楽しんだりする。

運動遊びの中にどのような動きが含まれているかを職員間で話し合い、様々な動き（36の基本動作）がバランスよく経験できるようにする。

※「楽しそう」「おもしろそう」「やってみたい」と幼児たちが興味・関心をもてるように保育者がやって見せたり、幼児たちと一緒に場の構成を行ったりする。



渡る



乗る・押す



掴む



のぼる



跳ぶ



くぐる



ぶら下がる



這う

- 様々な動きに挑戦し、「できた」ということを経験することで達成感や充実感を味わい、「もっとやりたい」「もっと難しいことをしたい」と次への意欲を高め、自分なりの目標に向かって取り組んだり、友達と一緒に繰り返し挑戦するようになった。
- 異年齢で一人一人が自分なりに挑戦していくので、やってみて同じように進めていくことが難しいと感じている幼児もいる。
- 「できるようになりたい」という思いをもち、友達と協力して遊びの場を構成しながら繰り返し取り組む姿が見られる。

異年齢での運動遊びになるため、体格やこれまでの経験、それぞれのペースを踏まえて構成の仕方や難易度、速度に気を配り、それぞれの幼児が安全に楽しめるようにする。

幼児たちの様子を日々担任間で伝え合い、一人一人に経験してほしい動きを共有し、活動を見守る際に全職員が意識して関わるようにすることを確認し合う。

立って行ってみよう！

高くしたら、もっと面白そう！

年長はできるけど年少さんは危ないんじゃない？

斜めにしても面白いね！



しっかり持って、ゆっくり…

みんなで持つよ！

じゃあ、危なくないように下にマットを敷こうよ！

ドキドキするけど楽しい！

- できるようになったことで、更に面白くなる遊び方を考えたり、次の目標を決めて取り組んだりする。
- 年上の子は年下の子の立場になって、みんなで安全に遊ぶ方法を考える。
- 年下の子は年上の子の遊んでいる姿を見て憧れの気持ちをもち、自分もやってみようとする。

実践事例②みんなで遊ぼう！

～異年齢の関わりを通して～ 10月

ねらい・簡単なルールのある遊びの中で身体を動かして遊び、異年齢児との関わりを深める。

保育者の言葉がけ

異年齢で遊ぶ楽しさを感じながら遊んでいる姿を毎日振り返り話し合うことで、幼児一人一人の運動機能や異年齢での関わり方を把握できるようになった。

更に、一緒に遊ぶ中で一つの目標に向かって協同して遊ぶことを経験できるように、簡単なルールのある遊びをする機会を設けることにした。

また、友達だけではなく他のクラスの担任とも関わっていきけるよう、遊びごとに担当者を決め、担当者が中心となって遊びを進めていくことにした。

※異年齢で一緒に行う簡単なルールのある遊びなので、難易度や速度に気を付けたり、気持ちを合わせることの大切さを話し合う機会をもつ。

【的当て】



投げる

一緒に投げよう！せーのっ！

どうしたら大きなのを倒せるんだろうね？



近くから投げるのは？

【引越しゲーム】

走る



まだここ入れるよ！

〇〇ちゃん！
こっちにおいで！

【股下トンネルくぐり】

這う、くぐる



体を小さくしたら
上手くくぐれた！



年長さんがトンネルをくぐりやすいように足をしっかり開いていたね！

●遊びに応じて担当の保育者の話を聞き、ルールを理解して運動遊びを楽しむ。

【フープくぐり】

くぐる



頭から入れたら入りやすい！

がんばれ！

走る、押す、這う、押さえる



あれ？まっすぐ進まない！

【マット掛け】

しっかり前を見るんだよね！



みんなで速さを合わせよう！

- どうすればできるかを考えて試しながら遊ぶ。
- 自分の思いや考えを友達に伝え、タイミングや力を合わせて一緒に遊ぶ。
- 年上の子が年下の子にルールや遊び方を教えたり、力加減や動きを合わせるよう考える。
- 年上の子から聞いた方法を自分なりに考えて遊ぶ。

異年齢での運動遊びには体格や経験、速さ等の差があるため、時にはそれぞれの学年の発達に合わせて思いきり遊ぶ機会をもつようにした。

異年齢で気持ちを合わせて運動遊びをする機会を積み重ねてきたことで、楽しく幼児同士が関わり、自然に会話が増え、有意義な時間となっていることを共有することができた。また、職員も楽しく保育を展開できるようになった。